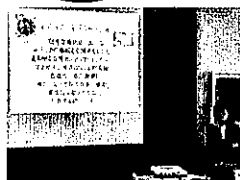


駒沢小学校 PTA 会員の皆様

世田谷区立駒沢小学校  
PTA 会長 宮永 拓実  
文化厚生委員長 早田 輝子

家庭数



寺島氏の講演より

第2回 家庭教育学級 “メディアリテラシー講座” ご報告

去る6月25日、ランチルームにて「メディアリテラシー講座」を、一般社団法人日本メディアリテラシー協会代表寺島絵里花氏を講師にお招きして開催し、36名の方にご参加いただきました。当日は、世田谷区教育委員会 社会教育指導員の村田紀江先生によるご挨拶の後、お話を伺いました。

メディアリテラシーとは？

民主主義社会におけるメディアの機能を理解するとともに、あらゆる形態のメディア・メッセージへアクセスし、批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力。

つまり、膨大な情報を批判的に読み解いて（正確に判断して）、自分の中に取り込む能力のこと。

＜メディアリテラシーを育てるために家と学校で取り組めること＞ 「5W1H」の5つの key question

- メディアの読み手として考えること（小学生新聞など使って親子で話し合うとよい）
  - 誰がこのメッセージを作ったのか？
  - どんな創作テクニックがわからない私の関心を引くために使われたのか？
  - このメッセージの他の人々の理解はどのように異なっているか。
  - このメッセージにはどんな価値観やライフスタイル、視点が表現あるいは排除されているか？
  - なぜこのメッセージは送られたのか？
- メディアの作り手になって考えること（NHK スタジオパークやキッズニアなどで体験可）
  - 私は何を制作しているのか？
  - 私のメッセージは、フォーマット、創造性、テクノロジーに意見が反映されているか？
  - 私のメッセージはターゲット・オーディエンスの心をとらえ、動かしているか？
  - 私はコンテンツの中で、価値観やライフスタイル、視点を明確かつ一貫して構成したか？
  - 私は目的を効果的に伝えたか？

＜知っていましたか？子どもたちに関わる重大ニュース！＞

1. 2020年にICT教育が始まる！

公立小学校で一人一台タブレットを持って学習するようになり、パソコンを使った授業が始まる。これにより個別学習が可能になることから、それぞれ（勉強が得意／苦手）に応じたサポートを十分受けられるようなカリキュラムを目指している。

2. 現在の中学2年生以下の子どもは大学入試に「情報」科目の試験が追加される！

教科をまたぎ知識と思考力が問われる問題。→「情報入試研究会」のサイトで模擬試験の閲覧可能

＜インターネットとは何か？の問いに答えてくれるおすすめ映画と絵本＞

映画「シュガーラッシュオンライン」：ネットの裏側の物語。ディズニープリンセスが全員登場！

絵本「ルビィのぼうけんインターネット探検隊」：雪でのごっこ遊びを通じたインターネットの体感。

＜ゲーム障害＞

1. 「ゲーム依存症」が世界保健機関（WHO）の定める国際疾病分類に精神疾患として分類された。依存は「孤独の病気」。居場所がない、自信がない、プレッシャーが強い、などを理由とした現実逃避の一種。スマホやタブレットは持ち運べるので依存症になりやすい。

しかし、ゲーム依存症を病気として意識しすぎない方がよい。ゲーム依存自体を責める前に、家庭の中で心が離れていないか、保護者自身が満たされていないことはないかを考える。

2. ゲームやネットにはまる前に強制的に遠ざけても意味はない！

いずれ何らかの形でゲームやネットに触れることとなる。一方的に毛嫌いせず、保護者も理解しようとする「歩み寄り」が大切。その上で親子間の「約束事」を決める。知識をお守りに、賢く使う。

3. ゲームの扱い方以前に「親子の信頼関係」が最も大切！

＜保護者が気を付ける事＞

保護者のネットの使い方が、子どもの睡眠、行動、情緒に影響を及ぼす。スクリーンタイムなどの機能を使い、自分がスマホで何にどれくらいの時間を使っているのかを調べるとよい。

インターネットで一旦個人情報と漏れると回収できないことをよく認識する。

＜情報モラルかるた＞

講演内でグループワーク（情報モラルを学ぶかるた）を行った。子どもたちが保護者に一番伝えたいのは、

ねえ聞いて スマホを置いて 私の話



＜インターネットをうまく活用するお勧めアプリ＞

プログラミングゼミ、スクラッチジュニア：子どものプログラミング学習にいい無料アプリ

ストップモーションスタジオ：ピタゴラスイッチのような動画や粘土アニメが作れるアプリ

レゴブースト：スマホでのプログラミングで動いたり音を出したりするレゴロボット

上記の他にも、絵本作りや工作を楽しめるアプリや、勉強ができるアプリ等もある。

良いアプリを使い、モノづくり、仕組みづくりをしたり、社会に目を向けたりするとよい。そのように良いものを使いこなすと、変なアプリやサイトに気づくようになる。

＜今後の展望＞

これからのAI時代には、答えのない問題を考え、解決し、伝えられる力が必要とされる。コミュニケーションといえば、かつては対面のみであったが、今はデジタルコミュニケーションもあるため、両方のコミュニケーション能力が大切。N高等学校、ミネルバ大学等の最先端の通信制学校もある。

インターネット等の普及や発展により、今までの固定概念が覆される「パラダイムシフト」が今まさに起こっており、親子でネットリテラシーを育てていくことが必要である。

～アンケートより感想（抜粋）～

- ・自分自身のスマホの使い方に対して考えさせられました。
- ・スマホやタブレットに支配されるのではなく、うまく使えるよう親子で勉強しよう思います。
- ・インターネットやITに関して目からうるこの情報ばかりでした。

～文化厚生委員より～

ネットをむやみに恐れるのではなく、正しい知識をもって賢く使うことや、ネットやゲームの扱い方よりまず親子の信頼関係を見直すことが大切であるというメッセージが印象的でした。

- 次回以降は以下の予定です。ぜひご参加ください。
- ・第2回9月19日（木）給食試食会（揚げパン等）
- ・第3回11月5日（火）「AI時代の失敗力（仮）」